

くじゅう坊ガツル地域の気候・水文

■ 気温と湿度について

坊ガツル湿原は標高約1,250m、周囲をくじゅう連山に囲まれて、深い盆地になっています。

年平均気温は約8℃で、大分市などと比べて8℃ほど低いのですが、夏の晴れた日には昼間30℃近くまで上がる一方、夜には湿原の底に冷たい空気が溜まって冷え込みはきびしく、15～12℃ぐらいまで下がります。10月には氷点下となり、冬には-10～-15℃に下がります。



坊ガツル全景

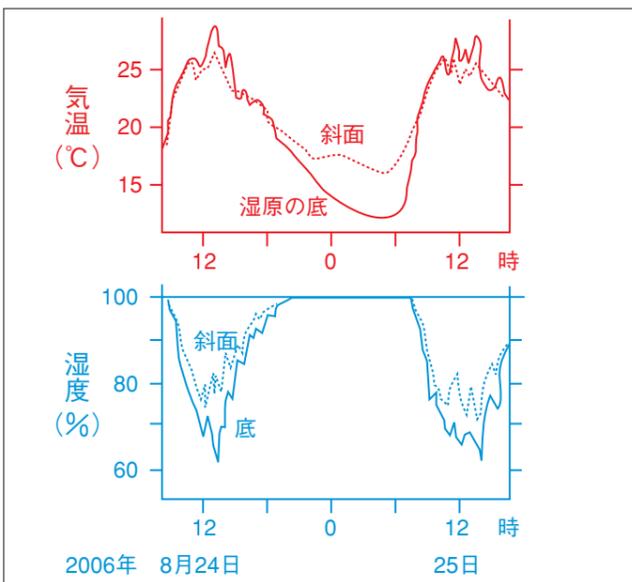


図1. 晴天日の気温と湿度

右の図は、雨の日の坊ガツルの気温を大分市と比較したものです。7月頃でも雨が降ると気温が上がらず、大分市と比べて10℃近くも低くなっており、20℃前後にとどまっています。

夏のくじゅう登山には、雨と低温への対策が必要です。

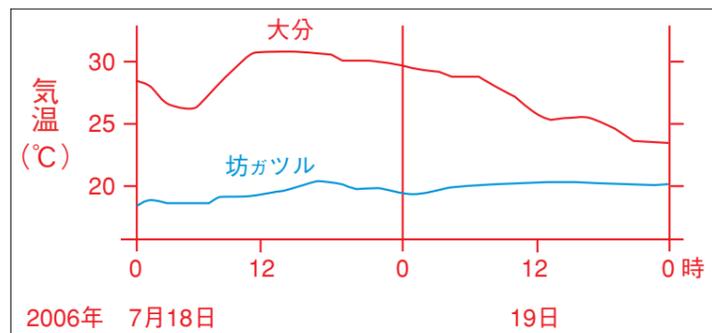


図2. 雨天の日の気温 (大分市と坊ガツル)

■ 降水量について

大分県の降水量は、瀬戸内海の沿岸部で年平均1,500～1,700ミリですが、県境の山岳部に向かって急激に増加し、くじゅう連山の1帯では2,500～3,000ミリに達します。

右の図は、くじゅう地域を中心に、海拔高度と年平均降水量の関係を示すものですが、海拔1,000m以上になると、年平均降水量は3,000ミリを超えることがわかります。

中でも法華院(坊ガツル)は津江山系よりも多く、年間約3,700ミリという、大分県内最大の降水量を記録しています。

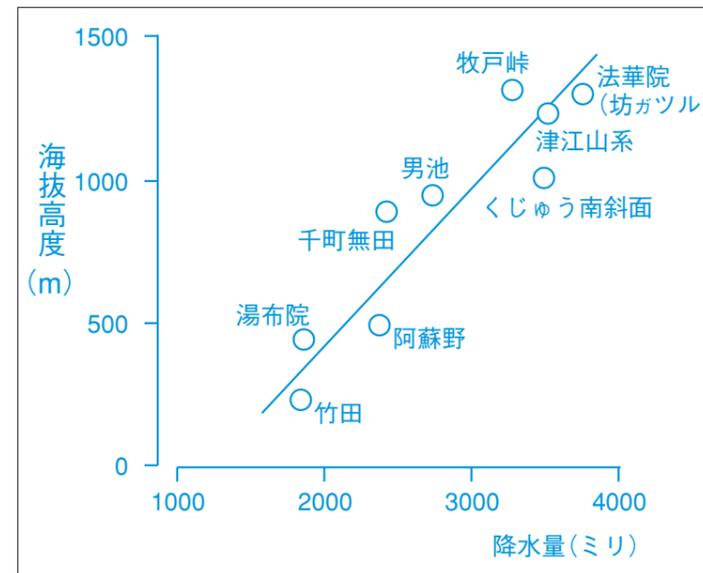


図3. くじゅう地域の年平均降水量

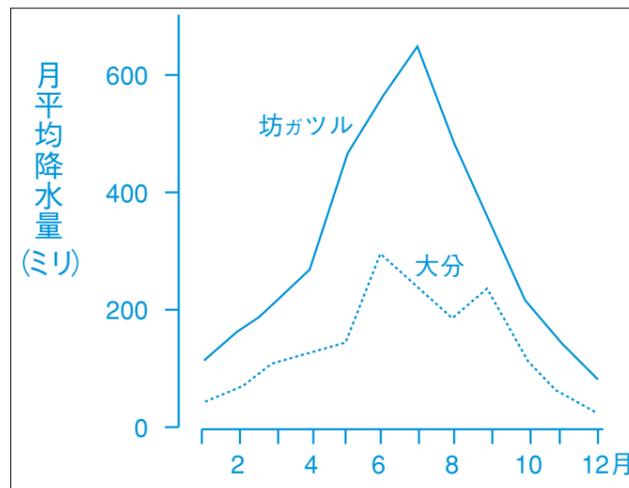


図4. 月平均降水量 (坊ガツルと大分市の比較)

左の図は、坊ガツルの月ごとの平均降水量を大分市のものと比較して示してあります。坊ガツルでは6～7月を中心に月間600ミリほどの雨が降り、大分市と比べて、毎月2倍以上に達することがわかります。

冬は月間100ミリ程度ですが、雪となって50センチ程度の積雪が記録されます。

■ 降水と流出・浸食

夏季を中心とした大量の降水は、山肌を流れ下り鳴子川の源流となります。ところが平素、源流を流れている水量は、多くありません。

これは夏の豪雨の時などに、まとめて一気に洪水のように流れ出すからです。時には土石流が起ったり、山肌などが激しく浸食されるのは、このためと考えられます。

坊ガツル湿原では、山肌の浸食や土砂の堆積を防ぐ必要があります。



進む山肌の浸食